

農繁期 レポート

令和7年 8月号

ニールファーム

オーナー	株式会社G-7新流
産地	三重県伊賀地区
水田面積	9.0アール
保証量	玄米252kg
形態品種	無農薬栽培コシヒカリ



生産者 (株)ツーライフ農園:北出 茂樹さん

今期の収穫作業についてご報告申し上げます。当初の予定より大幅に遅れが生じてしまいました。コンバインが繰り返し故障(計5回)し、その修理対応に追われた結果、刈り取りに適した晴れ間を逃し、雨にも妨げられて、収穫は予定より約1週間～10日遅れてしまいました。その間に圃場は倒伏し、オーナー様の圃場でない田んぼではイノシシなどの獣害が重なりました。加えて、雑草が再度繁茂し、その除去作業も発生するなど、現場は非常に厳しい状況となりました。また、収穫できた一部のお米についても、今年の厳しい暑さの害による白未熟粒が見られ、大変悔しい思いをしております。 ※:9月談

8月の作業内容等

1.出穂

茎の中から、さやを割ってうす緑色の穂(ほ)が出てきます。このことを出穂(しゅっすい)といいます。そして、この穂にお米の花が咲き、受粉した粳(もみ)がお米へと成長していきます。



出穂直後の柔らかい粳

2.登熟

受粉した粳は、光合成で作られたブドウ糖が、酵素の働きによってデンプンに変わり、少しずつ実っていきます。お米は、太陽のエネルギーをたっぷりと蓄えて、私たちの暮らしや活動を支えてくれる頼もしい存在でもあります。



成熟しつつある粳

3.高温障害と夜間気温

デンプンの粳への蓄積は夜間に行われます。ところが、夜間気温が高い場合、稲の呼吸が活性化しデンプンをエネルギーとして消費してしまうため、蓄積がうまくいかなくなり未熟粒になってしまいます。



成熟した粳

4.イネカメムシの防除

近年、イネカメムシによる斑点米被害が増加しています。要因として、温暖化による成虫の越冬成功率の上昇、繁殖サイクルの短縮化などがあげられています。現在、農協や自治体を挙げて、発生予測や防除方法の情報提供を強化しています。



ドローンを使った防除